道路整備財源調達に伴う厚生損失を考慮した高速道路料金の効率的水準

森杉壽芳

東北大学大学院経済学研究科

河野達仁

東北大学大学院情報科学研究科

要旨

我が国では，高速道路整備には利用料金収入が用いられ，一般道路整備には燃料税を主とする道路特定財源が用いられている．道路整備のような固定費用は，一括固定税が徴収可能な場合，死荷重を伴う利用料金や燃料税のような従量料金収入ではなく一括固定税収により賄われることが効率的観点から望ましい．しかし，現実には一括固定税の導入は困難であり，利用料金や燃料税による財源調達が行われている．このとき，ラムゼイプライシングや最適課税理論が示すように，各道路整備財源項目の限界費用を等しくさせるように利用料金や税率を設定することが効率的となる．そこで，本研究は財源調達に伴う厚生損失を明示的に考慮した上で効率的高速道路利用料金を求め，典型的な高速道路の現行料金水準の妥当性を検証する．その結果，現実的な財源調達厚生損失としてある程度大きいものを想定した場合，交通量の多い高速道路の料金は妥当といえるものの，交通量が中小程度の高速道路や高速道路需要の料金弾性値が大きい高速道路では，現行料金水準は高すぎることを示す．また，並行する一般道路がある場合，交通量が大きい（少ない）高速道路では現行より引き上げる（引き下げる）べきであり，一方，並行する一般道がない場合，交通需要の価格弾力性が著しく低い場合を除いて引き下げるべきであることを示す．